

# 熱闘 夏の甲子園



大会第2日

全国高校野球選手権大会第2日は7日、甲子園球場で行われ、愛工大名電（愛知）近江（滋賀）八学光星（青森）鶴岡東（山形）が2回戦へ進んだ。  
愛工大名電は二回までに10得点と星稜（石川）の先発マーガルドを攻略し、14-2で大勝した。昨夏4強、春の選抜大会準優勝の近江は鳴門（徳島）に8-2で快勝。エース山田は8回を4安打2失点にまとめた。  
八学光星は創志学園（岡山）に7-3。12安打と打線がつながり、3人の継投で反撃をかわした。鶴岡東は益進（広島）との点の取り合いを12-7で制した。

## 創志学園（岡山）

000 011 001 | 3  
000 220 03X | 7

## 八学光星（青森）

（創）岡村一竹本

（光）渡部、洗平歩、冨井一文元

▷三塁打 野呂▷二塁打 佐藤、中澤、成田、横井▷犠打 横井、上田、竹本、小松、織笠▷盗塁 竹本（1）、岩本（1）▷失策 谷、池上▷暴投 岡村2

▷試合時間 2時間32分

1回戦（7日）

【評】八学光星は四回、敵失と単打で1死一、二塁とし、野呂の右前適時打と織笠の左犠飛で2点先制。1点を返されて迎えた五回にも中澤の右翼線への2点二塁打でリードを広げた。八回には成田の右越え二塁打を口火に打線がつながり、長短5安打にバッテリーエラーも絡んで3得点と、突き放した。

投げては、先発渡部が毎回のように走者を背負いながらも要所を締め、5回1失点と粘投。六回以降は2番手の洗平歩、3番手の冨井ともピンチの連続だったが、それぞれ1失点で踏ん張った。

創志	打	得	安	振	球	犠	盗	失	打率
⑦	木村	4	1	3	1	1	0	0	.750
⑧	井政	5	0	1	0	1	0	0	.200
⑨	村田	4	1	0	0	1	1	0	.000
①	岡田	4	1	0	0	0	0	0	.600
②	金上	5	0	3	0	0	0	0	.000
③	竹本	4	1	0	0	1	1	1	.333
④	田本	3	0	1	1	1	1	1	.333
⑤	谷	4	1	1	0	1	0	0	.250
⑥	松	1	0	0	0	0	0	1	.000
⑦	小角	1	0	0	0	0	0	0	.000
⑧	野	0	0	0	0	0	0	0	.000
⑨	竹	1	0	0	0	0	0	0	.000
⑩	北	0	0	0	0	0	0	0	.000
⑪	野	1	0	0	0	0	0	0	.000
⑫	本	3	0	1	0	1	0	1	.333
計		34	3	11	2	6	4	4	.324

光星	打	得	安	振	球	犠	盗	失	打率
⑧	佐高	4	1	1	0	1	0	0	.250
⑨	藤	0	0	0	0	0	0	0	.000
⑩	野	3	1	1	0	0	0	0	.333
⑪	深	1	1	1	0	0	0	0	1.000
⑫	成	4	1	1	2	2	0	0	.500
⑬	中	4	1	2	2	0	0	0	.500
⑭	野	4	1	2	2	0	0	0	.500
⑮	織	2	0	0	1	0	1	0	.000
⑯	池	4	1	2	0	0	0	0	.500
⑰	井	4	0	1	0	0	0	0	.250
⑱	文	1	1	1	1	0	0	0	.000
⑲	渡	1	1	1	0	0	0	0	.000
⑳	名	1	1	1	0	0	0	0	1.000
㉑	部	1	1	1	0	0	0	0	.000
㉒	洗	1	0	0	0	0	0	0	.000
㉓	平	1	0	0	0	0	0	0	.000
㉔	歩	1	0	0	1	0	0	0	.000
㉕	冨	1	0	0	1	0	0	0	.000
計		34	7	12	6	3	1	1	.353

投手	回	打	安	振	球	失	責	防	御
岡村	8	36	16	12	3	1	7	5	5.63
渡部	5	20	7	6	5	3	1	1	1.80
洗平歩	2	12	4	9	3	1	3	1	4.50
冨井	2	10	3	7	3	2	0	1	0.00

●数字=回数 白ヌキ=安打 2=二塁打 3=三塁打

# 耐えた3投手

## 一人一人、全員主役

### 役割全う粘り勝ち

継投策が甲子園の舞台でも機能した。八学光星は今春の中国大会王者に11安打を浴びながらも、3人の継投で3点

**ワキさん**

に抑え、相手に流れを渡さなかつた。5回5安打1失点と好投した先発の左腕渡部和幹は「先制点を許さない気持ちで投げた。最少失点で粘れた

### 先発渡部、好投

から、打線もついてきたと思う」とうなずいた。  
3投手はいずれも、何度も得点圏に走者を背負ったが、勝負どころで丁寧にコースを突いて踏ん張った。3失点は2犠飛と失投によるもので、許した適時打はゼロ。渡部は「制球を意識して投げた。変化球でカウントを良くして、要所は真つすくで仕留めることができた」と満足げだった。

六回から継投した洗平歩人主将は立ち上がりの制球に苦しんだ。大舞台の緊張からかマウンドで足がもつれる場面も見られ、自滅する形で1失点。「心の弱さが出て、余裕がない投球をしてしまった。それでも、エースナンバーを背負う者としての意地は見せた。七回は1死満塁と一打逆転の大ピンチを招いたが、自慢のスライダーで後続を断

った。「最少失点で3番手につなぐ、最低限の仕事はできたかな」と淡々と語った。  
「日頃から、27個のアウトを（ベンチ入り投手）5人で取ればいいと伝え合っている。1アウトだけを取る投手がいてもいい。助け合いの関係でありたい」と洗平主将。2回戦も5人で力を合わせ、勝利に貢献する覚悟だ。  
(上村公悟)



創志学園戦に先発した八学光星・渡部和幹(甲子園)



【八学光星 創志学園】7回表、満塁のピンチを無失点で切り抜け、ベンチに戻る八学光星・洗平歩人(左)



創志学園戦に番手で登板した八学光星・富井賢

### ピンチで富井、頼もしく

○：八回無死一塁、3番手としてマウンドに送られた八学光星の富井賢。「2点のリードがあるのだから、あまり考え込まないで投げるようにした。直後に安打を許し、1死二、三塁ピンチが広がったが、後続を空振り三振、中飛に仕留め、その裏の味方の猛攻を呼び込んだ。  
九回には先頭に二塁打を奪取し、守りのミスが絡んで1点を失ったが、「カウントボールを多く投げて、直球を生かすことができた。失点はしたが、打たせて取ることもできた。全国の舞台を楽しめた」と胸を張った。  
青森大会からピンチでの起用が多い。「厳しい場面でも、テノボ良々ストライクを投げて、抑えるのが自分の仕事。チームの期待に応えていきたい」と力を込めた。

### 光星ナイン 宿舎で休養

愛工大名電の試合チェック  
7日の全国高校野球選手権大会1回戦で創志学園(岡山)に快勝した青森県代表の八学光星は8日、練習を行い打てた選手がしっかりと宿舎で休養し、2回戦で対戦する愛工大名電(愛知)の戦力分析やミーティングに時間を充てた。  
宿舎ではナインが相手の地方大会や甲子園1回戦の試合をビデオでチェック。トレーナーによるマッサージなども受け、疲労回復に努めた。  
愛工大名電は7日の第2試合で、石川の強豪・星陵に14-2で大勝。投打共に隙のない強敵だ。  
創志学園との初戦で、3投手を的確にリードし、八回には適時打も放った捕手の文元磨生は初戦について「県大会で当たりの少なかった選手がしっかりと打てた」と振り返り、2回戦に向け「データ班が相手チームの情報を集めてくれているので、それを信じて試合に臨むだけ」と闘志満々。「パツテリーは次も最少失点でいきたい」と意気込んだ。  
光星ナインは9日に練習を再開し、12日の2回戦に備える。  
(福田聡)

# 光星 打力全開

しぶとく、力強く

## 相手エース攻略、終盤連打

八学光星が創志学園の絶対的エース・岡村洗太郎を見事に攻略した。打線が中盤以降に本領を発揮し、野呂洋翔や織笠陽多ら中軸は計ら打点をマーク。仲井崇基監督は「打つべき選手が打つと、こんな展開になる」と納得の表情だ。

初回、一回と走者を出しながら併殺で連続逸の隙を見逃さなかった。「暑さの影響なのか、投手の球威が落ちてきている」と仲井監督。

打線が3巡目に入った機。三回までは打球が外野に飛ばず、内野安打一つに抑えられる嫌な流れだったが、わずかな相手

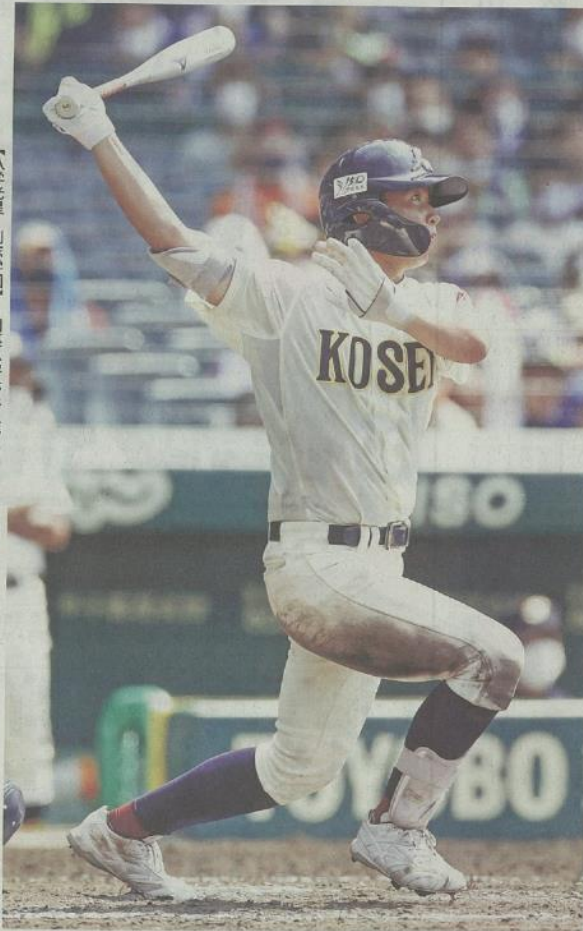
四回、潮目が変わった。敵失と単打で1死1、二塁の局面で、野呂が「粘っていた投手陣を何とか助けたかった」と、スライダーに泳がされながらも執念で右前に運んだ。織笠もスライダーを捉えがつかない2点を追加した。相手の決め球をたたく、主導権を握った。

2点差に詰め寄られて迎えた八回には、再び打線が息を吹き返した。途中出場した成田光佑の右越え二塁打や野呂の右中間三塁打など5安打を集めた。バッテリーエラーにも乗じて一気に3得点も積みかけた。要所で勝負感を発揮した野呂は「チームとして変化球を確実に捉える練習をしてきた」と結果につながった」と手応えを口にした。

2回戦の相手は圧倒的な攻撃力で初戦を制した名門・愛工大名電（愛知）。青森大会からバットでチームをけん引している織笠は「打の光星」の本領を発揮し、次も打ち勝つ」と闘志を燃やした。

(福田駿)

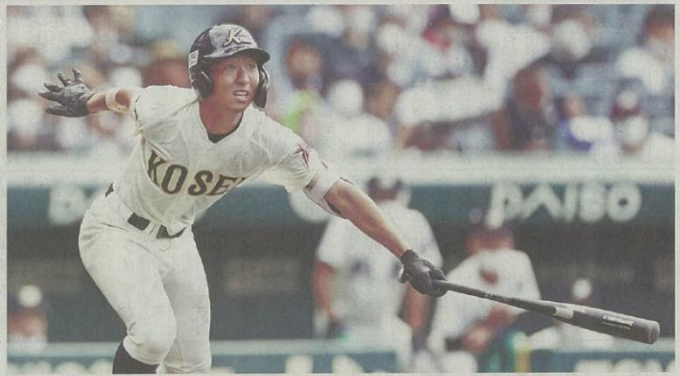
### ハイライト



【八学光星】創志学園 8回裏八学光星1死1塁、野呂洋翔が右中間に適時三塁打を放つ＝甲子園



【八学光星 創志学園】4回裏八学光星1死、三塁、織笠陽多が左犠飛を放つ



【八学光星 創志学園】5回裏八学光星2死、三塁、中澤恒貴が右翼線に2点二塁打を放つ

## 唯一の2年中澤、中軸の働き

○…八学光星でスタメン唯一の2年生がバットで初戦突破に貢献した。中澤恒貴は初回こそ併殺に打ち取られたものの、四回は左前打で先制機を拡大。1点差の五回は2点二塁打を放った。「チームにとって流れを引き寄せる一本になった」と満足そうに語った。

五回は2死ながら二、三塁の場面。2ストライクとされたが「追い込まれてからの粘り強さは自信がある」。体勢を崩しながらも食らい付き、右翼線ぎりぎりに運んだ。「得点機を逃すと相手に流れが渡ってしまふと思っていたので、絶対に打つつもりだった」と、してやっつかりの表情だ。

光星の中軸を担う自覚は十分。「青森代表の名に恥じないプレー」をこの甲子園で見せたい」。2回戦でも大暴れする決意だ。